

大使館便り

第191号 平成31年2月8日
在ポルトガル日本国大使館

1. 新美大使からのご挨拶

以前、種子島への鉄砲伝来にまつわる伝承をテーマとした音楽劇が、岐阜県関市の市民グループにより当国で上演されたことをご紹介しましたが、今度は、その種子島の西之表市から、八板市長を団長とする訪問団がポルトガルに来訪されました。主な目的は、アルガルヴェ地方のヴィラ・ド・ビスポ市と同市の姉妹都市関係25周年をお祝いすることでしたが、1月15日にヴィラ・ド・ビスポ市で開かれた祝賀行事では、日・ポルトガル両国の古式火縄銃の試射が披露されました。

日本の火縄銃、長篠の合戦において信長軍が3000丁の鉄砲を擁して勝利したことは、学校で習いましたよね。種子島への伝来の50年後には、世界の鉄砲の半数が日本で生産されていたそうで、このエピソードを講演等の機会に紹介すると、ポルトガルの方々から驚かれます。私は火縄銃の試射を目にするのは初めてでしたが、実演された種子島火縄銃保存会の方々から熟達されているせいもあるのですが、火薬の装填、玉込め（但し、今回の試射は空砲）から発射まで、想像していたより所要時間が短かったことが印象的でした。長篠の合戦での3段撃ち、これには諸説あるようですが、もし事実だったとしたら、かなりの頻度で射撃が行われたのだろうと感じました。

ポルトガルの火縄銃は、種子島に伝来する以前の1392年製、及び1492年製の銃が披露されました。実演されたポルトガル歴史的銃保存研究協会の方のお話では、火縄銃はそもそも男性に比べ非力で弩（クロスボウ）を使いこなすのが困難だった女性のために開発されたそうで、その原型に近い1392年製の銃（写真の左手の射手の方が手にしている）は、銃床の無い棒のような形をしており、射程も60メートル程ということです。因みに、同会の皆さんは時々リスボンのサン・ジョルジェ城で試射デモンストレーションをされているそうですので、ご覧になられた方もおられると思います。私も今回大変貴重な体験をさせて頂きました。日本、ポルトガル双方の関係者の方々に敬意と謝意を表します。

最後に、先日大使公邸において新年会を開催致しましたところ、ご多忙の中多数の方にご出席頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。同時に、このような形でこのような会を開かせて頂くのは久しぶりのため、準備の過程で試行錯誤した面があり、ご案内等でご迷惑をお掛け致しました。謹んでお詫び申し上げます。今回の経験を今後活かして参りたいと思っております。



2. 政治・経済関係

(1) レベロ・デ・ソウザ大統領の新年のメッセージ

1月1日、レベロ・デ・ソウザ大統領は新年のメッセージを発表しました。同大統領は、ポルトガル経済は、危機から脱出し再び期待が寄せられているものの、より長期的かつ深遠な視野を持つ必要があると述べました。世界情勢が困難に直面するなかで本年は欧州議会選挙、マデイラ自治州議会選挙及び共和国議会選挙が開催されることとなっており、国民の選択により国の将来が決まるため、国民には棄権せずに投票するよう、また選挙に立候補する者には、自身の経歴を慎重に顧みて、有権者を幻滅させないよう呼びかけました。

(2) サントス・シルヴァ外相、外交セミナーで講演

1月3～4日、各国ポルトガル大使会議の一環として外交セミナー（外務省主催）が開催されました。3日、「地政学上の位置付けとポルトガルの対外政策」と題してサントス・シルヴァ外相が基調講演を行い、「ポルトガルとヨーロッパは、イスラム原理主義をはじめとしたテロリズム、地理的に近接した国家の崩壊、そして気候変動とそれに伴う影響という3つの危機に直面している」とし、「これらの諸問題に対しては、人権尊重の観点に留意しつつ、同盟国と共に取り組むことが重要である」と述べました。また、「ポルトガルは、欧州統合、大西洋地域の連携、ポルトガル語圏諸国及び海外ポルトガル人コミュニティの4つの柱の継続性と安定性を重視している。これら4つの柱は、経済・言語・文化・科学技術の国際化、そして多国間主義の促進によって、一層強化されるべきと考える。また、EU、NATO、そしてポルトガル語圏（諸国及び海外ポルトガル人）は、ポルトガルの対外関係の根幹にかかわっている。また、中南米地域、サブサハラ（とりわけ南西部）及び、マグレブ諸国をはじめとする北アフリカは、地理的・歴史的にもポルトガルと親和性が高く、北アフリカ、特にマグレブ諸国の状況は直接的にポルトガルに影響を及ぼす可能性があり、その事実が軽視されがちな風潮を打破していく必要がある」と述べました。

(3) ポルトガル政府とポルトガル空港会社間で「リスボン大都市圏の空港キャパシティ拡張のための資金調達及び経済活動の原則に関する合意文書」に署名

1月8日、ポルトガル政府は、ポルトガル空港会社（ANA：民営化の一環で2013年に仏の空港運営会社ヴァンシ・エアポートの傘下入り）との間で、「リスボン大都市圏における空港キャパシティ拡張のための資金調達及び経済活動の原則に関する合意文書」に署名しました。

政府の発表によると、今後、ウンベルト・デルガード空港（通称リスボン空港）は、欧州とアフリカ各国、アメリカ大陸各国への接続を可能とするハブ空港として運用され、テージョ川を挟んでリスボン市対岸に位置するモンテージョ空港（モンテージョ空軍基地の一部を改修し使用される予定）には、乗り継ぎを想定していない短距離線や中距離線及びチャーター便等が振り分けられる予定です。最長10年間となる第1段階において、ANAは13億ユーロ以上の投資（リスボン空港に6億5,000万ユーロ、モンテージョ空港に5億2,000万ユーロ、空軍及び空港へのアクセスに1億6,000万ユーロ）を行い、モンテージョ空港の利用料はリスボン空港より15～20%低く設定される予定です。現時点で、モンテージョ空港の環境影響報告調査が完了していないため、政府はリスボン空港の拡張工事から進めていくことを予定しています。

(4) 「国家投資計画2030」の閣議決定及び共和国議会での討論

1月11日、ポルトガル政府は、今後10年間（2021～2030年）の戦略的な投資に関する「国家投資計画2030」を閣議決定しました。同計画には交通・運輸、気候変動分野及びエネルギー分野に関する72件のインフラプロジェクトに関する計画が盛り込まれており、投資額は219億5,000万ユーロ（政府予算から約40億ユーロ、欧州基金から57億5,000万ユーロ、民間企業から75億6,800万ユーロ等）です。政府は、同計画に対する国民からの幅広い支持を得るために共和国議会に同計画を提出することにしました。

1月12日、共和国議会での党首討論において、コスタ首相は、「国家投資計画2030」について取り上げ、「国家の発展は、時の政権の決定によるものであってはならず、国民意思の総意の下、国家の利益及び将来を第一に考えていくべきである」と述べた上で、「長期にわたって同計画を確実に実施していくためにも、投資計画の段階でまずは議員の3分の2以上の承認を得ておくことが望ましい」と述べました。14日、社会党（PS）は、同計画に関する政治的コンセンサスを得ることを目的とした決議原案を共和国議会に提出しました。1月31日、本件に関する議会討論において、野党からは、同計画の発表のタイミングが欧州議会選挙の三か月前であることから、政府による選挙運動であると批判し、賛成票は投じないとの意向が示されたため、PSは議会での投票を行わず、同決議原案を常任委員会へ提出することにしました。

(5) ユーロソングージェン社の世論調査結果—1月

1月12日、週刊エスプレッソ紙はユーロソングージェン社が実施した世論調査結果を発表しました。与党・社会党（PS）の支持率は40%と、1.84ポイント下落しました。最大野党・社会民主党（PSD）の支持率も2ポイント下落し、同党の1976年の最低支持率（24.3%）に近い24.8%となりました。今次世論調査に初登場したアリアンサは4%の支持率を獲得しました。

(6) 英国のノーディール離脱に向けた緊急対応計画の閣議決定

1月17日、ポルトガル政府は、英国のEUからのノーディール離脱に向けた緊急対応計画を閣議決定しました。同計画には、英国在住のポルトガル人に対する領事サービスの強化及びポルトガル在住の英国国民に対する権利の保証、並びに対英国輸出への依存度の高い中小企業の輸出先多様化を目的とする5,000万ユーロのクレジットラインの提供等の支援策が含まれています。

(7) バルニエ欧州委員会首席交渉官のポルトガル訪問

1月17日、バルニエ欧州委員会首席交渉官はポルトガルを訪問し、欧州問題委員会、外務委員会及び経済委員会の合同公聴会に出席したほか、コスタ首相とのワーキングランチの後、大統領府において、レベロ・デ・ソウザ大統領主催の国家評議会の会合に参加し、英国のEU離脱につき議論しました。

(8) シザ・ヴィエイラ首相補佐兼経済相及びセンターノ財務大臣が世界経済フォーラムに出席

1月23～24日、シザ・ヴィエイラ首相補佐兼経済大臣は、ダボスで開催された世界経済フォーラム会合に出席しました（ブリリャンテ・ディアス国際化担当外務副大臣同行）。同大臣は、欧州・ロシア間の協力関係の可能性に関するパネル・ディスカッション及び欧州が直面している最新課題に関する意見交換会に出席したほか、ポルトガルへの投資に関心を持つ大手企業代表15名と会談しました。同会合にユーログループ議長として出席したセンターノ財務大臣は、海外

メディアへのインタビューに対し、欧州経済の景気後退は、英国のEU離脱及び米中貿易摩擦等の影響により、予想よりも長引く可能性がある」と述べました。

(9) レベロ・デ・ソウザ大統領のパナマ訪問

1月25～27日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、パナマで開催された青年カトリック信者の集会、「世界青年の日」に参加するため、パナマを訪問しました（レベロ青年・スポーツ担当副大臣同行）。26日、同大統領は、フランシスコ法王がサンタ・マリア・ラ・アンティグア大聖堂で執り行ったミサに出席したほか、バレーラ・パナマ大統領と会談し、27日にはメトロパークでの世界青年の日の閉会ミサに出席しました。同ミサの終了後、フランシスコ法王は、ポルトガルのリスボンが2022年の次期「世界青年の日」の開催地として決定されたと発表しました。

(10) コスタ首相のキプロス訪問

1月29日、コスタ首相はキプロスを訪問しました（ザカリアス欧州問題担当副大臣同行）。同日午前、同首相は、アナスタシアディス・キプロス大統領と会談した後、シルリス・キプロス共和国議長と会談しました。同日午後、コスタ首相は、キプロスで開催された第5回南欧サミットに出席し、キプロス、フランス、イタリア、ギリシャ、マルタ各国首脳及びスペイン外相と経済通貨同盟の改革、移民難民問題及び英国のEU離脱等について会談しました。

3. 広報・文化関係

(イベント)

●展示会「驚愕の歴史ーポルトガルと日本の16～20世紀」

国立アジュダ宮殿において、国際交流基金の協力により日本・ポルトガル間の歴史をテーマにした標記展示会（原題：Uma História de Assombro. Portugal-Japão séculos XVI-XX）が、以下のとおり開催されています。

日時：11月30日（金）～2019年3月26日（火）

会場：国立アジュダ宮殿

住所：Largo Ajuda 1349-021, Lisboa

お問い合わせ：213 637 095 / 213 620 264



●田中紅子氏による影絵劇作品の公演

当地在住のアーティスト田中紅子氏による影絵劇の公演が以下のとおり行われます。影絵という表現を通して、昔の人と自然との関係、人への思いやりや物作りの大切さを物語ります。なお、公演はポルトガル語により行われます。

演目「Rapazinho do Carvão」

昔むかし、ある村で固い地盤のためお百姓さんの農作業が進まずに困っていたところ、鍛冶屋さんが丈夫なのら道具を一生懸命作ろうとしていたところに一人の不思議な少年が現れて・・・

URL:<https://www.youtube.com/watch?v=VONVxbXlv8Y>

日時：2月10日（日） 15：00～（上演時間20分、その後、影絵体験あり）

会場：シントラ国立宮殿内、Área de estar（チケット売り場横の入り口からお入り下さい） 入場無料

住所：Largo Rainha D. Amélia 2710-616

お問い合わせ：www.benikotanaka.com / info.benikotanaka@gmail.com

対象：6歳以上

（報告）

●西之表市公式訪問団の来訪

1月13日～18日、西之表市（種子島）とヴィラ・ド・ビスポ市（アルガルヴェ）の姉妹都市交流25周年を記念し、西之表市から八板俊輔市長をはじめとする16名の公式訪問団の方々がポルトガルを訪問しました。15日にはヴィラ・ド・ビスポ市市庁舎で歓迎レセプションが行われ、サーフィンを中心としたスポーツ交流や両市の児童・生徒の交流等について提案が行われた他、ヴィラ・ド・ビスポ市市庁舎隣の「種子島広場」において種子島火縄銃保存会、またポルトガル歴史的銃保存研究協会/ポルトガル歴史レクリエーション協会による火縄銃のデモンストラーションが行われる貴重な機会となりました。





(お知らせ)

● 広報文化班からのお知らせ

今後、当館主（共）催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えてEメールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、cultural@lb.mofa.go.jp までご連絡下さい。

4. 領事関係

(1) 在留届に関するお願い

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、ポルトガル国内での転居、日本への帰国、他国への転出等、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。

(2) 第三国出国の際の「たびレジ」登録のお願い

在留届を提出されている在留邦人の皆様は、普段は海外安全情報配信サービス「たびレジ」に登録する必要はございません。しかし、休暇、出張等、第三国にお出かけの際には、是非「たびレジ」の登録をお願いいたします。「たびレジ」に登録すると、渡航先の大使館・総領事館から、日本語で最新の安全情報がメールで届きます。また、大規模な事件・事故、テロ、自然災害等緊急連絡のメールが届き、安否の確認や必要な支援などを受けることができます。

登録はこちら：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

(3) 当館領事業務へのご意見募集

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975 E-mail：consular@lb.mofa.go.jp

(了)

5. 日本語補習授業校からのお知らせ

(1) リスボン校

リスボン日本語補習授業校においては、新規講師を募集しております。教員資格の有無は問いません。教育に熱意があり、真摯に子供に接して頂ける方をお待ちしています。

毎週土曜日開校、ご興味ある方は下記にお問い合わせお願い致します。

リスボン日本語補習授業校 運営委員会

lisbon_jschool@yahoo.co.jp



<http://lisbon-jschool.wixsite.com/lisbon-jschool>

(2) ポルト校

ポルト日本語補習授業校では、本教員と生徒を募集しています。詳しくは、PDFファイルをご覧ください。

https://www.pt.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000652.html